

経営理念	<p>【学校教育目標】自ら学び行動し、自分・他者・地域を愛する子供を育てる (目指す児童像)○主体的に学び、行動できる子 ○自分・他者・地域と対話ができる子 ○多様な見方・考え方、深い学びができる子 (目指す学校像)○あたたかく楽しい学校 ○活力にあふれた学校 ○地域に開かれた学校 (目指す教師像)○子供を大切に、保護者と共に歩む教師 ○教育公務員として自覚をもって取り組む教師 ○互いのよさを認め合い、協力して取り組む教師</p> <p>【学校経営目標】夜須中学校区一貫教育の推進に向けて～ 系統性・継続性・適時性のある教育実践と地域の信頼にこたえる学校づくり～</p>
------	--

【評価規準】 A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		評価	達成状況	評価	考察	
学力の定着と向上	①全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査、標準学力調査(2回目)において、全国平均並みの学力を目指す。	B	全国学力・学習状況調査(平均正答率全国比・県比) 6年国(+6.2・+5)、算(+5・+4)、理(-1.1・-3) 高知県学力定着状況調査(平均正答率全国比・県比) 4年国(+4.8・+7.3)、算(+10.4・+9.1)、5年国(+1.8・+0.8)、算(+11.3・+9.0)、理(-2.6・-2.2) 標準学力調査(2回目)(平均正答率全国比) 1年国(+5.2)、算(+1.7)、2年国(+2.8)、算(+2.0)、3年国(-6.5)、算(-7.8)、6年国(-1.4)、算(+0.2) ・3年国・算以外は、全国・県平均以上または平均並み。3年はインフルエンザで未受検の児童が数名いたことも影響している。授業改善や帯タイム学習、加力指導等の成果が表れてきていると考える。	B	全国平均以上または平均並みであり、授業改善等の成果が見られている。	・算数科を中心に児童主体の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指し授業改善を進めていく。また、一人一台端末の効果的な活用場面を増やしていく。 ・昼の帯タイムやチャレンジタイム、放課後の加力指導を継続・充実させていく。
	②「授業に主体的に参加している」の肯定的評価95%以上	B	「授業に主体的に参加している」:肯定的評価 94.3%(強肯定 59%) ・まだまだ教師主導の授業が多いので、授業の中で、児童に委ねる場面を計画的に設定し、更に児童主体の授業に変えていく必要がある。	B	更なる児童主体の授業を目指し、取組を行い、強肯定70%を目指してほしい。	・授業の中で児童に委ねる場面を計画的に設定し、児童主体の授業にしてい
	③「授業で協力したり、話し合ったりする活動をよくしている」の肯定的評価 90%以上	A	「授業で協力したり、話し合ったりする活動をよくしている」:肯定的評価 96.7%(強肯定 70.5%) ・ペアやグループでの活動を授業に取り入れることができている。	A	96.7%は素晴らしいと思う。	・児童に委ねる場面を増やすことで、自発的な話し合いや協力をする場面を増やしていく。
豊かな心の育成	①「自分にはよいところがある」肯定的回答90%以上	A	「自分にはよいところがある」:肯定的回答 87.7% 「あなたは、まわりの人の役に立っていると思いますか」:肯定的回答 88.5% ・振り返りを行うことで自分の頑張りに目を向けられるようになった。 ・異学年交流や異校種交流をすることで児童は達成感や自己有用感を感じられているのではないかと。	A	どちらも達成できている。	・教員が肯定的評価や声掛けを意識して指導していくとともに、個々の活躍の場を設定していく。 ・振り返りの場を継続して設定していく。 ・異学年交流や異校種交流を行った際には感謝の気持ちを伝える場を設定する。
	②「授業中に自分の思いや考えを安心して言える」肯定的回答90%以上	B	「授業中に自分の思いや考えを安心して言える」:肯定的回答 84.4% ・相手意識をもって聞く力や話す力が弱い。	B	授業を見せていただいたが、どの学年も自分の思いを出し合い、授業に向き合っていた。	・間違いを生かした授業展開を意識するとともに、さまざまな場面、人は一人一人違っているのが当たり前という意識を育てていく。 ・友達の話最後まで聞く、反応を返す、端的に話す、分かりやすく話すなどを意識して指導する。 ・ペアやグループ活動は引き続き取り入れていく。
	④「あなたは、先生や友達にほめられたり認められたりすることがあります」肯定的回答90%以上	A	「あなたは、先生や友達にほめられたり認められたりすることがあります」:肯定的回答 87.7% ・自己評価だけでなく、児童や教員などから他者評価を受けることで自分のよさに気付く場面があった。	A	達成できている。さらに自己肯定感をあげてほしい。	・教員による肯定的評価や児童同士の相互評価の場面を多く設定していく。 ・学級会やYASUプロを計画的に実施し、一人一人の活躍の場を設定していく。
体力の向上と健康・安全への理解	①「体育の授業が好き」…1～6年生 強肯定75%以上	A	「体育の授業が好き」:1～6年生 肯定的回答 94%(強肯定 77%) ・各担任が体育の学習で目指す姿や育てる力を明確にした授業を実施している。 ・休み時間には外で遊ぶ児童が多く、運動が好きな児童が多い。	A	この数値は素晴らしいと思う。	・さまざまな運動ができるようになる体育授業になるように、ICTの活用や児童同士の関わりを多く設定していく。 ・休み時間や放課後等の外遊びの時間が増えるように働きかけていく。
	②「朝からすっきりチャレンジ」(年間3回)の早寝・早起きの項目を向上させる。(3学期の結果で早寝・早起きともに75%以上達成)	A	「朝からすっきりチャレンジ」の早寝・早起きの項目 3学期の結果:早寝74%、早起き76% ・保健指導と「朝からすっきりチャレンジ」をセットで行い、生活習慣改善の意識を育ててきたが、課題が固定化している児童がいる。	A	達成できている。固定化している児童へは、引き続き配慮しながら意識を育てていってほしい。	・保健指導と「朝からすっきりチャレンジ」をセットで行うとともに、養護教諭と学級担任が連携し課題のある家庭への啓発を行っていく。
	③「朝からすっきりチャレンジ」(年間3回)の早寝・早起きの項目を向上させる。(3学期の結果で早寝は73%以上、早起きは70%以上達成を目指す。)	A	「朝からすっきりチャレンジ」の早寝・早起きの項目 3学期の結果:早寝74%、早起き76% ・保健指導と「朝からすっきりチャレンジ」をセットで行い、生活習慣改善の意識を育ててきたが、課題が固定化している児童がいる。	A	達成できている。固定化している児童へは、引き続き配慮しながら意識を育てていってほしい。	・保健指導と「朝からすっきりチャレンジ」をセットで行うとともに、養護教諭と学級担任が連携し課題のある家庭への啓発を行っていく。
信頼される学校づくり	①不登校の予防と支援・いじめ防止新規不登校による長期欠席児童(30日以上)を0名	C	不登校の予防と支援・いじめ防止新規不登校による長期欠席児童(30日以上):1名 ・SC、SSWと連携して支援している。	B	目標値(0)も高いのではないかと。対応はできている。引き続き家庭に寄り添い、SC・SSWと連携し、支援をしていってほしい。小中合同での支援会もやっているとよい。	・遅刻や欠席の状況を確認し、初期の段階での対応を強化する。SCやSSWだけでなく、地域の民生委員・児童委員、主任児童委員等とも連携していく。 ・支援会を定期的に開催していく。
	②毎月の勤務時間外の在校時間45時間未満の達成率80%以上及び不祥事の発生件数0	A	毎月の勤務時間外の在校時間45時間未満:達成率87.9%(4～1月平均) 不祥事の発生件数:0 ・不祥事防止研修は4月から計画的に実施できた。	A	素晴らしい成果だと思う。	・計画的、効率的に業務を行っていく。 ・計画的に不祥事防止研修を実施する。
	③安全教育(防災)「地震時に自分で判断して身の安全を守る」家・建物の中・外とも85%以上	A	「地震時に自分で判断して身の安全を守る」:家・建物の中 96%、外 95% ・避難訓練:地震2回、火災1回、小中合同引渡し訓練1回・園小中合同地震避難訓練2回、起震車体験(1・3・5年)、教職員の不審者対応訓練1回実施できた。訓練等をおして児童は自信をつけている。	A	訓練の積み重ねの成果だと思う。	・さまざまな場面、状況を想定しての訓練を計画、実施していく。 ・弾道ミサイル発射対応訓練を実施する。 ・園小中合同の引き渡し訓練を行う。
	④ICTの効果的な活用 毎日、全児童がタブレットを使用した学習の実施	B	全児童がタブレットを使用した学習を毎日実施:1・2・3・4・6年○、5年△ ・5年は2日に1回程度の使用になっている。	B	ほぼ達成と言ってよいのではないかと。効果的な活用に取り組んでほしい。	・一人一台端末の効果的な活用について研究し、活用場面を増やしていく。
	⑤こども園・小の円滑な連携・接続 年間10回以上	A	こども園・小連携・充実に向けた研修及び交流:年間11回(研修4回、交流活動1年5回、5年2回) ・園と小の研修に相互に参加しあえた。 ・交流活動はつき組園児と1年、5年で計画的に実施できた。	A	計画的に実践されている。中学校との連携もお願いする。	・計画的に交流活動を実施していく。 ・園、小相互に研修参加の機会を作っていく。

経営理念	<p>【児童一人一人が生涯にわたって、自律的によりよい生き方を目指すための基礎となる、豊かな心と確かな学力、健やかな体を身につける】</p> <p>学校教育目標：「かがやけ香我美！楽しい学校！～かしこく・やさしく・たくましく～」</p> <p>〈目指す児童像〉○学びを楽しみむ子ども ○明るく元気に仲間と共に伸びる子 ○人や自然と豊かな関わりがもてる子ども</p> <p>〈望む教師像〉○児童の心に寄り添う教師 ○豊かな教育力を持ち、児童や保護者に信頼される教師 ○協働・協調の精神、使命感ある教師</p> <p>経営方針：学校教育目標に基づき、子ども自身が物事を判断し積極的かつ根気強く取組もうとする児童の育成を目指した学校経営を行う。</p> <p>①全員が登校する学校 自尊感情・社会性・規範意識の育成 ②授業を改善する学校(合理的配慮ある授業づくり)</p> <p>③組織力を発揮する学校(協働と信頼えを得る発信) ④子どもに寄り添い可能性を伸ばす学校(積極的態度の育成)</p>
-------------	---

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価 ※学ア：学校生活アンケート 学評：学校評価		○考察 【次年度に向けて】	学校関係者評価	
		評価指標	評価 達成○ 課題▼			
豊かな心	①自分自身のよさに対する自覚の向上	○学ア「学校が楽しい」強肯定50%以上 ○道徳調査で、「自分にはよいところがある」肯定80%以上 ○学評「きまりを守っている」肯定65%以上	B	○「学校が楽しい」強肯定53.7% (肯定86.1%) ○「自分にはよいところがある」肯定82.7%(強肯定53.7%) ○「きまりを守っている」肯定94.9%(強肯定54.2%)	<p>①④全児童が楽しみ交流を深めている。折り合いを付ける大切さを学ぶ必要がある。</p> <p>①④児童会主催の各学年挨拶運動により、目標を決めて挨拶する姿勢が見られた。</p> <p>③合理的配慮の研究により「整える・そろえる」を確認。</p> <p>②③特支CO、不登校担当、管理職、外部機関と連携して継続的な支援を行っている。</p> <p>⑤児童が主体的に学ぶ授業づくりや安全な支援について学び、体力向上への基盤ができていと捉えている。</p> <p>⑤養護教諭の見通しを持った取組により教職員・児童へ効果的に啓発できている。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「言葉のシャワー」「縦割り班活動」「挨拶運動」「参加型集会」の継続 異学年交流や保幼小中地域が一体となった学習や活動を通して、キャリア教育で求められる資質・能力を育成するとともに、ふるさとを誇りに思う心を育む。 「高知の道徳」「重点目標」との関連を確実に行う。 様々な活動の中で児童同士や教職員から即時評価を行い、価値付ける。 「保健だより」「講師招聘研」による児童・保護者への啓発 	<p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>
	②生徒指導上の諸課題改善に向けた効果的対応	○新規不登校児童0名 ○重大ないじめの発生0件 ○児童の暴力行為0件	C	▼新規不登校児童2名 ○重大ないじめ 0件 ▼対教師暴力行為2件 ▼器物損壊1件		
	③特別な教育支援の必要な児童に対応する校内体制の整備・実効性のある実践	○校内支援会の開催(月1回) ○学ア「学校が楽しい」強肯定50%以上 ○学ア「先生は相談に答えてくれる」肯定85%以上	B	○校内支援会17回開催 ○「学校が楽しい」強肯定53.7% (肯定86.1%) ○「先生は相談に答えてくれる」肯定93.9%(強肯定65.7%)		
	④特別活動を中心とした絆づくりの推進	○「全校で何かをするのは楽しい」肯定85%以上 ○学評、保護者からの評価「子ども達はあいさつをしている」肯定60%以上にする ○児童会・委員会活動で、全校が楽しめる場を5回以上設ける	B	○「全校で何かをするのは楽しい」肯定95.0% (強肯定68.1%) ▼保護者の「あいさつ」に関する肯定53.9% (強肯定16.9%) ○参加型集会活動(計7回)		
	⑤安定した学校生活を支える多様な運動機会の提供と基本的生活習慣への取組	○元気っ子カード「自分で決めた就寝時刻を守る」65%以上 ○学評「基本的生活習慣の定着に努めている」肯定70%以上 ○全国体力・運動能力調査男女ともT得点が50点を上回る	A	○「自分で決めた就寝時刻を守る」76.0% ○「基本的生活習慣の定着に努めている」肯定69.5%(強肯定32.5%) ○運動能力は男子50.4 女子53.8 「体力・運動能力重点校」年間3回研修実施授業へ生かす肯定100%		
確かな学力	①主体的・対話的で深い学びを培う授業	○全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査、標準学力調査で、全国平均並みの学力を目指す ・全国学力学習状況調査、国語・算数が全国平均-5P以内 ・標準学力調査2年～6年の国語・算数が全国平均-5P以上	B	○全国学力・学習状況調査結果(6年)国語70%(+3.2%)算数55%(-3%)理科62%(+4.9%) ○高知県学力定着状況調査結果4年：国語72.4%(+2.0%)算数67.0%(+1.3%)5年：国語66.7%(-2.7%)算数69.8%(+7.8%)理科58.0%(-7.4%) ▼標準学力調査結果1年：国語71.2%(-3.7%)算数78.0%(-0.6%)2年：国語71.4%(-7.9%)算数62.7%(-8.6%)3年：国語62.0%(-14.7%)算数59.5%(-13.2%)6年：国語73.0%(+2.2%)算数74.9%(+1.8%)	<p>①2,3年生に課題がある。安心して学習できる環境構成の重要性が理解できるようにする。</p> <p>②各種アンケート「授業がわかる」「主体的に取り組む」「自分で考える」「ペア、グループで学習する」の肯定群が80%を超え、強肯定群も全項目40%以上であり、学習に向かう姿勢は整っている。</p> <p>③「ユニバーサルデザインの視点を意識した授業づくり」の肯定的評価を示す教員は42%であり、児童が「わかる」「できる」授業実践は課題である。</p> <p>④家庭学習の家庭への啓発が必要。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況を児童自身に認識させ、取組方を児童自身が考えられるよう、「学びの振り返り」をICTを活用しながら取り組んでいく。 学級集団で学ぶ「わかる」「できる」「楽しい」を実感できるように、UDの視点を理解し、授業づくりに努める。 領域によって理解度に差があるため、児童が苦手とする部分を把握し、時間をかけて学習できるように単元での時間配分を調整するなど単元構成を工夫する。 落ち着いた取り組める環境整備(教室環境の工夫、刺激量の調整、場の構造化)を徹底する。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>
	②自分の考えを発表して話し合ったり、練習したりする授業	○学評「勉強・運動の力が伸びている」肯定60%以上 ○学ア「授業が分かる」肯定80%以上 ○学ア「思考」「協働学習」肯定80%以上 「自分の考えを表現する」肯定70%以上 ○タブレット活用状況80%以上	B	○「勉強・運動の力が伸びている」肯定54.4%(強肯定20.8%) ○「授業が分かる」肯定85.7%(強肯定46.8%) ○「思考」肯定80.6%(強肯定44.5%) ○「ペア/グループ学習」肯定81.8%(強肯定54.8%) ▼「考えを表現する」肯定66.4%(強肯定33.4%) ○タブレット活用全学級100%活用		
	③合理的配慮ある授業の取組	○「合理的配慮に関するアンケート」肯定群の向上 ○学ア「グループ・ペアで考えることが好き」肯定80%以上 ○学評「先生は授業改善の工夫や努力をしている」肯定60%以上	B	○「合理的配慮に関するアンケート」肯定群全項目向上 ○「グループ・ペアで考えることが好き」肯定81.8%(強肯定54.8%) ○「授業改善に工夫・努力」肯定62.3%(強肯定27.7%)		
	④家庭学習の習慣化への取組	○学ア「家庭学習時間が守れた」低学年、中学年、高学年ごとの割合75%以上 ○タブレットを家庭に持ち帰り、家庭学習に活用する。	C	▼家庭学習時間 全校61.1% 低学年70% 中学年56% 高学年57% ○自主学習ノート展2回実施(予定通り)「学ぶ部会」からの通信発行(年間3回) ○タブレット週末持ち帰りは実施		
信頼される学校	①保護者や地域への積極的な情報発信	○学校だよりを1月に2回以上発行 ○学級・学年だより平均月1回以上発行 ○学評「情報発信」の肯定的評価80%以上	A	○学校だより 2月末33号配付 ○学級・学年だよりは月1回以上発行 ○「情報発信」の保護者肯定的評価94.8% (強肯定32.5%)	<p>①管理職の情報発信・公開の姿勢により発信が充実した。</p> <p>②地域・保幼中との連携は計画的に実施できている。実行性のある計画・カリキュラム見直しも進んでいる。「地域部屋」の運用は地域とのつながり、働き方改革に有効である。</p> <p>③「地域の中の学校である」という意識と発信が有効であったと考える。</p> <p>④訓練回数、学習、マニュアルの見直しは実施できている。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した学習活動の取組(地域部屋設置・名簿作成・CSリーフレット完成・総合的な学習の時間全体計画等)の充実。 情報発信の継続 「危機管理」や「不祥事防止」の意識が向上する研修の実施 保幼小と連携継続、小中連携取組強化 香我美所属長会の実施 	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>
	②保護者や地域と連携した学校行事等の工夫と中学校区連携による教育活動	○保護者と意見交換できる場を5回以上設ける ○地域学校協働本部の活動が、のべ年100回以上・のべ400名を目指す ○香我美中学校区連携の取組は、計画の85%以上を実施する	A	○学年・学級懇談、地区懇談会9回開催 ○地域人材活用 111回・のべ人数約370名 *「50周年記念行事」参加者を含めると400名を超える。 *地域協働本部事業に係る名簿作成 ○中学校区の連携は計画通り実施		
	③学校評価・学校関係者評価の実施	○学評「保護者の意見を運営に生かす」肯定評価60%以上	B	○「保護者の意見を運営に生かす」肯定61.1%(強肯定18.2%)		
	④危機管理マニュアルの活用と危険予知能力の向上	○学評(保護者)「危機管理」肯定的評価70%以上 ○設定・内容等を工夫した避難訓練を実施する。	B	○「危機管理」に関する肯定的評価76.7% ○避難訓練年間5回実施済 ○学期ごとに安全点検の実施 ○「危機管理マニュアル」の見直し、周知 ○保幼小合同引渡し訓練の実施 ○「不祥事防止」の計画の運用 研修及び日常的なコミュニケーション		

経営理念	子どもたちが、自分を大切に、友だち一人一人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、学習に生き生きと取り組む教育活動を推進し、『生きる力』を育む教育を創造する。 ①基礎学力の定着・学力向上とその基盤となる基本的な生活習慣の確立、体力の増進をめざす。 ②自分や他の人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、生活の中で行動できるようにする。 ③安全・安心な学校づくりに努める。 ④学校・家庭・地域の連携をさらに強化し、地域協働の教育活動を推進する。 ⑤チーム学校として、教育力の向上に組織的に取り組む。
------	---

	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価(学校)		評価委員評価		改善策
			評価	達成状況	評価	考察	
豊かな心の育成	1 自分や他の人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、生活の中で行動できるようにする。	○自分や他の人を大切に思う言動がとれるようになる。	B	○学校行事や学級活動、校外学習等を通じ、自尊感情が向上し、多くの児童が自分や友だちを大切にできる姿が見られるようになった。軽はずみな言動も少なくなった。	B	・発達途中の子どもの集団です。トラブルは起きます。子どもたちがトラブルを通して成長できるようこれからも継続して指導をお願いします。道徳教育では家庭での指導も重要、言葉の違いを含め連携して取り組んでください。 ・「児童生徒のアンケート」いじめや差別を絶対に許さない96%あり、子どもたちの人権意識が高まっている。	○言葉の違いや相手に配慮した言動については常時、継続して支援・指導していく。 ○児童が主体的に考え行動できる行事や仲間づくりの場を仕掛け、児童の自己肯定感、自己有用感の向上に繋げていく。 ○人権意識を高めるため、仲間づくりや人権教育をさらに充実し、「いじめや差別を許さない」を100%にする。
		○日常的な児童の観察を絶やさず、教職員同士の情報交換・共有などによって問題行動の早期発見に努め、組織で迅速に対応する。	B	○日常的に児童の学校生活や授業、行動等の様子を観察・把握し、学年間やブロック間での情報交換・共有を行い、ブレのないように組織的な対応に努めている。児童への対応時には、学級担任を中心に迅速な対応、保護者への連絡、家庭訪問等ができた。	B	・アンケート結果では子どもは先生を信頼しており評価が高い。先生方は日頃から、児童クラブ、家庭等に対し、訪問・情報交換・連絡など多岐にわたる迅速な対応に感謝するほどです。これからも保護者が相談しやすい環境と関係作りを努めてください。 ・問題行動の背景・原因をしっかりと認識し、持続的な生活指導や発達支持的アプローチを大切にします。	○問題行動の未然防止に努め、常時教職員間での情報共有・周知を徹底し、ブレのないよう迅速に組織的に取り組む。 ○全教職員が無防犯の意識を持ち、日常的に児童の様子を観察し、変容を見逃さないようにする。問題行動発生時には初期対応を大切にします。児童や保護者が相談しやすい環境・関係づくりに努める。常に肯定的評価を心がけ、児童に向き合う。
		○学校や社会のきまりを守るようにし、規範意識を身につける。	B	○教職員間でも意識を持ち、継続的な指導を行っており、日常生活でも多くの児童に規範意識は身につけている。繰り返し個別指導が必要な児童には、丁寧かつねばり強く支援や指導を続けている。	B	・子ども・保護者・教職員のアンケートの肯定評価が高い。自転車の交通安全学習を低学年も対象に実施して欲しい(法改正あり)。 ・集団生活、規律の共通理解が重要。子どもたちの自治的活動を積極的に取り組む。	○教職員も規範意識をしっかりと持ち、学校全体で組織的に指導を継続していく。関係機関とも情報共有を密にし、連携・協働して取り組んでいく。 ○児童が自分たちで主体的に「きまり」について考えたり、改善策を立て、行動できる機会を仕掛けていく。
		○さまざまな人との出会いを通じた学習や地域についての学習などをすすめることにより自己有用感を高め、学習したことが生活の中で行動化できるようにする。	A	○各学年、内容や方法を工夫して地域の方々と交流学習を実施することができ、視野を広げることができた。活動を通じて達成感を味わい、自己有用感や自己肯定感の向上に繋げることができた。日常生活の中でも仲間を思いやり大切にできる姿勢が見られるようになった。	A	・地域のことを学習する機会や子どもが活躍できる場がたくさん設けられ、子どもたちが、赤岡町のことを大切に思い行動している姿が素晴らしい。 ・赤岡小の子どもたちの活躍は地域行事を企画して運営できる力を感じた。授業参観では気持ちの良い挨拶ができていた。 ・地域の人材や資源などを上手に活用しつつ、子どもに還元できるような取組がなされている。 ・それぞれの発展段階に応じて、地域学習や地域の人から学んでいる。赤岡を誇れる子どもの育成。	○児童が日常的に地域や地域の方々と交流を深める機会や、主体的に活動できる機会を設定し仕掛けていく。様々な立場の方々と交流の機会を深め、視野を広げていく。 ○市民館や地域の施設と情報共有し、人権学習(同和問題、高齢者学習)等、活動できる内容を検討しさらに深めていく。

学力の向上	2 基礎学力の定着・学力向上とその基盤となる基本的な生活習慣の確立をめざす。	○主体的に学習できる、「分かる楽しい授業」にするため、授業研究や授業評価を進め、授業の改善に努め共有していく。	B	○年間計画に基づき職員研修を実施し、課題の洗い出しや指導方法の方向性を共有し、日常的に授業改善に努めている。学力検査等の結果により、徐々に基礎学力の定着や学力の向上が見られるようになった。	B	・授業参観では、先生と子どもたちの距離感が近く授業で分からないことを質問したり発表ができていた。ICTの活用は自主学習で活かされていたインターネットリテラシーについて継続指導してください。 ・100%に近い子どもが「分かる」と実感しているが、「分からない」子どもへの手立ても続けながら授業がつかまらないよう、「分かる」楽しさを味わえるようにしてほしいという願いです。 ・教員の授業力の向上の評価が必要。校内研の全体構想の提示。	○教員が向上心を持ち、ICT活用と授業改善に努めるとともに、お互いの授業を見合い、研究・共有する機会を増やす。評価・検証を大切に授業力向上に向けての継続的な取り組みを実施する。 ○校内研修の全体構想を提示し、教員一人ひとりの意識を高め、研修内容の充実を図り、教員自身が研鑽を重ねていく。 ○日々の学習支援や指導、データ分析を行い、児童の実態に応じた指導方法を検証し授業改善に生かす。
		○保護者やボランティアの方々とともに、のびのび学習等を実施して基礎学力の定着・学力の向上を図る。	B	○地域ボランティアの方々と連携・協働し、実施することができた。 ○個に応じた支援や指導を継続することにより、児童の学習意欲や基礎学力の定着、学力向上に繋がってきている。	B	・ボランティアの方からも、学校に携わることがうれしいような励みになっているような言葉を聞きます。 ・体験学習を積極的(もっと多く)取り入れては、地域のボランティアさんの尽力に感謝です。	○授業や家庭学習でタブレット等のICT機器を有効活用し基礎学力の定着、学力向上を進めていく。 ○保護者や地域ボランティアの方々と情報を共有し、連携・協働して児童の基礎学力向上・定着に向けての取り組みを検討・継続していく。
		「読む力」「書く力」「表現する力」を育成する。	B	○日常的に授業や日誌等で読み・書きを意図的に仕掛け、「読むこと」「書くこと」「表現する力」の育成に努めている。	B	・学習の基本「聴く力」を育成して姿勢よく静かに聴くことができるように、そして「読む力」「書く力」「表現する力」を伸ばし学力向上を目指して欲しい。 ・自分の意見がないのかあるのか、あっても表現できないのは能力なのか、環境によるものなのか、様々な要因が考えられると思う。1人ひとりに合った手立てが必要だと思うので、保育所の時から大切にしていきたい。 ・物作りから学ぶ。考える力を養う。	○日常的に「読む」「書く」「表現する」場面を生かして、授業等で仕掛けて、成果を児童や保護者、家族に還元していく。 ○身についた力を主体的に活用できる場についても意識的に仕掛けて、日常生活や行事等にも生かせるように繋げていく。
		○健康や食に関する取組や体力づくりを進め、学習の土台にする。	B	○養護教諭による保健指導や栄養教諭による食育指導、また年間計画に基づいた行間体育を実施するなど体力づくりや健康、食に関する啓発、取り組み等ができた。	B	・保護者と連携して取り組んだ成果が高評価です。生活習慣の改善や食育指導も実施できている。 ・手洗いコンテストの開催、もりもりモーニングなど、子どもが楽しみ、前向きに取り組める内容や取組となっていました。 ・家庭の協力が不可欠なので、家庭へのアプローチを。	○今後とも、養護教諭や栄養教諭と連携・協働し、計画的・組織的に継続して取り組んでいく。 ○保護者や家庭にも積極的に啓発を行い、連携・協働して取り組む。 ○「黒潮の子ども応援隊」の皆さまと一緒に児童や保護者、家庭への啓発を勧め、家庭との連携・協働体制を築いていく。

経営理念	子どもたちが、自分を大切に、友だち一人一人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、学習に生き生きと取り組む教育活動を推進し、『生きる力』を育む教育を創造する。 ①基礎学力の定着・学力向上とその基盤となる基本的な生活習慣の確立、体力の増進をめざす。 ②自分や他の人を大切にできる豊かな人権感覚を身につけ、生活の中で行動できるようにする。 ③安全・安心な学校づくりに努める。 ④学校・家庭・地域の連携をさらに強化し、地域協働の教育活動を推進する。 ⑤チーム学校として、教育力の向上に組織的に取り組む。
------	---

	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価(学校)		評価委員評価		改善策
			評価	達成状況	評価	考察	
信頼される学校	3 一人ひとりが大切にされ、安全に学べる学校にする。	○楽しい学校づくりのため、意識調査や生活調査等を活用して学級集団づくりを計画的に進める。	B	○各学級担任が児童に丁寧に接し居場所を保障し、自尊感情を高めるとともに教職員間で児童の情報を共有・周知することができ、個別支援にも繋げることができた	B	・アンケート結果より子どもが学校が楽しい、保護者も子どもが学校生活に満足していると回答しています。先生方の丁寧な取組の成果と見えます。 ・調査結果の分析と共有が重要。 ・他学年との交流など色々と楽しむことを意識した活動が計画されていたと思う。継続してもらいたい。	○日常的に、子どもの様子や状態をしっかり見取り、教職員間で情報を共有・周知し、学級集団づくりや児童支援、個別対応の在り方を再確認実践に繋げていく。 ○生活アンケート等の結果分析、課題解決に向けての方向性や手立てを全教職員で共有・周知していく。全教職員でブレないように動く。
		○委員会活動や縦割り班活動を通じてリーダーを育成し集団づくりを進める。	B	○自覚と責任をもって委員会活動や縦割り清掃活動等に主体的に取り組むことができる児童が多くなり、高学年はリーダーとしても成長し、自己有用感も向上した。	B	・縦割り班活動や行事での連携、学習支援など異学年交流が行われ、教職員のサポートを得ながら子どもたちが地域のことを学習し学校生活や地域を活性化する取組ができています。 ・子どもたちが主体的に行動しようとする姿を先生方が支えようとしていることが伺えるため(日頃の姿から)。 ・自治的活動の充実を。	○学校行事や日常的な活動の中で、児童が自信を持ち、友だち同士で関わり合い、主体的に取り組める場面を設定し仕掛けていく。 ○児童が自分たちで企画・立案し、主体的に活動できる学校行事や集会、委員会活動を仕掛け、全教職員でサポートしていく。
		○特別な教育的支援の必要な子どもに対する取組を組織的・計画的に進める。	B	○校内支援会や外部機関とのケース会等で、特別に支援を要する児童の様子や支援方法を確認し、継続的に取り組んでいる。福祉事務所や児童相談所等の外部機関との更なる協働が必要である。	B	・成果を感じることは難しいかもしれないが、学校として果たす役割は十分に行っている。 ・一人ひとりの教育的ニーズ(学習や生活上の困難)を把握し、個別の指導計画に基づいた支援。	○SCやSSW、外部機関を交えた校内支援会を計画的に実施するとともに、教職員間で共通理解を図る。全教職員で支援の方向性や手立てを共有・周知しブレのないように取り組んでいく。
		○子どもの保護者が悩みを相談しやすい学校にする。	B	○保護者との情報共有や児童との関わりを大切に丁寧に対応している。学校評価の結果より、児童や保護者の相談に十分応えられていない場合もある。	B	・相談体制の確認と周知の徹底を。SCと連携した活動の充実を。 ・日々の児童や保護者との関係作りをもう少し意識する必要があると思う。	○常に未然防止を意識して取り組み、トラブル発生時等にも迅速かつ丁寧に対応し、保護者との連絡も密に取り合うことで信頼関係を構築していく。 ○児童や保護者と日常的に信頼関係を築き、相談しやすい環境・関係作りを進めていく。
		○防災教育や危機管理体制を充実させ、子どもの安全を確保する。	B	○計画的な避難訓練の実施や少年防災クラブの活動等を通して、安全教育の質を高め、啓発している。 ○日頃より教職員間にも啓発を進め、危機意識を高めるよう努めている。	B	・実践的な避難訓練の計画的な実施を。 ・防災教育が実施され防災に対する意識が高い。赤岡町少年防災クラブの活躍が楽しみです。災害時子ども自身が状況を判断して避難することができるよう継続して指導をお願いします。 ・保育所の抱える問題にも共に対応していただきました。細やかな対応をされています。	○様々な想定での避難訓練を計画的に実施するとともに、教員間での振り返り・再確認等を行い、学校安全への意識と指導力の向上に努める。 ○先への見通しを持ち、地域の方々や関係機関と連携し、教職員自身も防災に対する意識を高め、防災学習・避難訓練等の活動を充実させる。
	4 開かれた学校づくりを進め、保護者や地域のひとともに子どもを育てる。	○学校だよりやホームページを通じて、学校の情報を積極的に提供する。	B	○「学校だより」や「各学年学級だより」、「あかっぴー」等の通信、「地域への掲示板」で地域・保護者への情報発信はできた。今後、ホームページでの情報発信・更新を改善していく。	B	・学校だよりや掲示物などで子どもたちの活動内容や頑張り、成長している姿がしっかり伝わってきました。児童数を増やすにはホームページの活用が必須です。 ・学校だよりや学年だよりを拝見していますが、児童の頑張りや生活の様子がよく分かります。また、学校として保護者に伝えたいこと、願うことが明確な内容となっていると思います。	○定期的な各通信の発行と、学校ホームページの随時の更新により、学校の近況や児童の生活、活動の様子を丁寧に保護者や地域等に発信していく。 ○教職員・保護者・地域が一体となり、連携・協働して取り組んでいく「地域の学校」を充実させる。
		○保護者や地域のひとともに、いろいろな行事に取り組む。	B	○学校行事や校外学習、地域行事等に参加し、保護者や地域の方々と共に活動することができた。行事をやり切ることや集団の中で活動することにより、達成感を味わい自己有用感を高めることができた。	A	・赤岡小学校の取組が地域を活性化している存在になっている。地域全体で子育てを支援して小学校と連携した取組を継続してほしい。 ・授業もあり限られた時間の中で、十分に取り組んでいると思います。 ・「黒潮の子ども応援隊」の積極的な活用を。 ・PTA活動と一体となった行事を。 ・一定取り組んでいると思うが、地域の人が固定化しているように思う。	○保護者や地域と共に活動できる行事等を企画・立案し、無理なく気軽に参加できる体制を構築していく。 ○保護者や地域と連携・協働を図り、地域行事にもできる限り参加していく。地域の様々な人材を活用し、児童の視野を広げていけるように努める。
		○保護者に対して家庭学習の手引きなどを配布し、家庭学習の環境を整える。	B	○家庭学習の習慣が定着するよう働きかけているが、まだまだ全員のものとなっていない。タブレットの持ち帰り、家庭での有効活用の啓発をしていきたい。	B	・保護者の多忙さと家庭学習への取組の意識が保護者アンケートの低い原因ではないでしょうか。子どもに「自ら学ぶ力」がついて、「子どもが頑張っているから支えたい」など親子で頑張る姿が多く見られると良いですね。継続は力なり。 ・学習の手引き等の資料の提示を。	○保護者への啓発、家庭学習への協力体制の構築を各通信や参観日の懇談会時において働きかける。タブレット等ICT機器をより効果的に活用し、保護者と連携・協働して取り組んでいく。
		○保育所や他の小学校・中学校と連携し、共に取り組む活動を充実させる。	B	○保小、小小の交流活動は定期的な実施でき交流を深めることができた。小中連携授業や体験入学、あいさつ運動も実施できた。	B	・交流学習や他小学校、高知高専出前授業など積極的に実施できている。 ・今年度も交流を通して、赤岡保育所の子どもは親しみを感じる機会となり、小学生の成長も感じられました。 ・赤中地区教育懇談会の一層の充実が必要。	○校区の校種間でさらに連携を強化し、よりよい活動内容を検討・協議していく。児童・生徒同士や教職員同士がより繋がり、連携・協働していく活動にしていける仕組みをつくる。 ○赤中地区教育懇談会による、保・小・中・高の連携体制をより充実させる。

【評価基準】A:85%以上(十分満足) B:84~70%(おおむね満足) C:69~50%(もう少し努力すべき) D:50%未満(大いに努力が必要)

学校経営方針	学校教育目標【わたしがすき なかまがすき ふるさとがすき】 〈児童の姿〉○よいことに全力チャレンジ吉川の子 ○しあわせな故郷つくる吉川の子 ○かた組んで仲間と進む吉川の子 ○わたし好き人も大好き吉川の子 〈学校の姿〉○豊かな心を育む学校 ○確かな学力を育てる学校 ○子ども・保護者・地域に信頼される開かれた学校 〈教師の姿〉○豊かな人権意識を身につけた教職員 ○子どもを肯定的にとらえ、学びを支援する教職員 ○子ども、家庭、地域の願いを受けとめ、実践する教職員 ○仲間と協働し、課題解決に努力する教職員 ○教育に対する高い専門性を身に付けるために自己研鑽する教職員
--------	---

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	学校の自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
豊かな心の育成	○人権教育・道徳教育の推進	①道徳教育、人権教育の授業の充実を図り、道徳アンケート「自分によいところがある」を80%以上にする。また道徳、人権学習の参観日での授業公開を実施する。 ②「家庭で取り組む高知の道徳」を活用する。	①「自分によいところがある」91.4%で昨年度より向上している。11月の人権学習参観日では、各学年の人権学習授業公開と車いすラグビー体験を実施した。名前を呼び、良さを具体的に褒めることを全職員で意識して実践してきた。 ②1学期「正しいことは勇気を出そう」、2学期「自由と自分勝手はちがう」をテーマに、家庭で活用する取組を実施し、保護者からの返信をお便りで紹介した。	B	・良いところを認める声かけの成果が出てきている。引き続き取り組んでほしい。 ・i-チェックの低下が気になる。満足群以外の子どもについても分析をし、取組に生かしていく必要がある。 ・以前は購入した本を読んだり、図書室で借りた本を隙間時間に読んだりしていたが、最近見かけることが少なくなった。図書袋を持ち帰っていない子どももいるようだ。学校として指導を徹底することを望む。	・自分の良さに気づき、自分を大切にすることを育むことは、周りを大切に作る集団作りにもつながる。道徳教育や人権教育はもちろん、少人数の学校だからできる一人一人を大切に作る学校づくりを、これからも地道にコツコツと重ねていく。 ・支援が必要な児童に対しては、SCやSSW、外部専門家や福祉関係機関など外部との連携しながら支援を継続してきた。家庭支援については、保小中高が足並みをそろえた取り組みとなるよう、一層の連携を図る。 ・読書指導に限らず、学校としての取組の一体感が必要である。年度当初に、取組内容と指導の在り方について確認し、指導を徹底するようにする。	
	○情操教育の推進	③図書活動を充実させ、学校評価アンケート「本を読むことが好き」を80%以上にする。	③「本を読むことが好き」86.1%。読み聞かせや選書会などのイベント、おすすめ図書の紹介などの取組により、昨年度の67%より向上している。	B			C
	○認め合い、支え合う集団づくり	④集会、学級活動等において、ほめ言葉を増やし、i-チェックで満足群の児童を80%以上にする。	④i-チェック満足群4月89%→12月75%。楽しい学校生活を自分たちの力で作っていかうとする意識が少しずつ芽生えてきている。	C			C
	○不登校を生じさせない学校体制づくり	⑤特別支援教育の研修や校内支援会を計画的に行う。 ⑥入院または長期病気療養以外で欠席日数30日以上の子を0人にする。	⑤講師招聘の特別支援教育の研修を3回実施した。校内支援会をタイムリーに実施し、情報の共有と支援策の話し合いを行ってきた。 ⑥30日以上欠席児童1名。	B			B
	○学力の定着	①高知県学力定着状況調査：正答率6割未満の児童、標準学力調査：評定1児童、国語、算数ともに40%以下にする。	①評定1の児童の割合は、全校平均算数39.4%で目標を達成しているが、60%超の学年もある。国語は60.6%で目標と大きく隔たりがある。	D			D
学力の向上	○授業の質の向上	②複式授業の工夫・改善を進め、全ての学級担任が授業公開を行うことで授業改善を推進する。	②全学年で授業を公開したが、全員が全ての授業を見ることはできていない。授業を見合う機会を確保するための工夫をしたい。	C	C		
	○効果的な研修の実施	③校内研修を計画的に実施し、教員の授業力を高めることで表現力の育成を図る。	③校内研修と教員の授業力の向上、児童の表現力育成が効果的に運動していないと感じる。児童の表現力を向上させるための指導はどうあるべきか、早急に検討していく。	C	C		
	○タブレット端末の効果の推進	④授業での効果的な活用や、家庭学習の取組について、学期に1回以上、校内研修で実践を交流する。	④学校全体として、十分に取り組むことができていない。校務での活用も進んでおらず、各教員の自主性に任せているところが大きな課題である。	D	C		
	○読書活動の推進	⑤計画的な読書活動を行い、学校図書館や新聞を活用した学習活動を進め、目標冊数達成率を75%以上にする。	⑤1月末74.3%で、目標まであとわずかである。年度末での目標達成に向け、図書室の利用頻度を上げる取組を工夫する。	B	B		
	○家庭学習の推進	⑤計画的な読書活動を行い、学校図書館や新聞を活用した学習活動を進め、目標冊数達成率を75%以上にする。	⑤1月末74.3%で、目標まであとわずかである。年度末での目標達成に向け、図書室の利用頻度を上げる取組を工夫する。	B	B		
体力向上・健康増進	○体育的活動の充実	①運動の楽しさを味わえるように体育授業、体育的活動の充実を図る。 ②高知県体力・運動能力習慣調査の評定D・Eの児童を25%以下にする。	①学校評価アンケート「体育の授業や体育集会は楽しい」100%。体育集会以外にも、体を動かす楽しさを感じられる活動を多く取り入れ、実施してきた。 ②D・E34.3%。高学年の割合が高く、授業とともに日常的な運動習慣に課題が残る。	C	・「楽しい」と感じられることが何より大切。人数の制約等がある中でも、いろんな運動を経験させるよう、授業や活動を工夫してほしい。 ・生活リズムの取組については、取組の重点を一つに絞って（例：早起き）みるのも良いかもしれない。		
	○保健指導の充実	③保護者と連携し生活調べ「早寝」「早起き」を全校平均3.5以上にする。	③1学期からの推移、「早寝3.0→2.5→3.2」「早起き3.7→3.0→2.6」1月参観日に睡眠と生活リズムの親子講演会を実施した後実施した3学期は、早寝の数値が向上している。今後も効果的な働きかけを工夫していく。	C		B	
信頼される学校	○防災教育の推進	①防災教育、安全教育の年間計画の改善と防災学習の実践を工夫する。 ②想定を変えた実効性のある避難訓練を年8回以上実施する（内、児童予告なし2回以上）	①9月に実施した防災参観日で防災の授業を公開した。避難訓練の実施の在り方について検討を重ね、よりリアルで実効性のあるものに見直しを繰り返している。 ②児童予告なし4回、教職員予告なし2回を含み、これまでに9回実施。	A	・抜き打ち避難訓練の実施、避難タワーへの着替えの保管など、例年に加えた取組ができた。防災については、ここまでの十分ということはない。引き続き取組を進めてほしい。 ・今年は栽培活動に取り組めなかった。何を育ててみたいか、子どもに聞いてみるのも良いかもしれない。 ・食に関する取組は、地域で担えるようにしていきたい。		
	○生産者教育・食教育の充実	③生産者教育・食育の改善を進め、地域人材や食材を活用した取組を進める。	③トウモロコシ、シトウ、ピーマンの収穫体験、朝食づくり料理教室、年3回の各学級での給食指導は実施したが、地域人材の活用や栽培と食をつなげる積極的な取組はできなかった。	C			
	○連携教育の重質	④保育所や赤岡小学校、赤岡中学校との連携の充実を図る。	④計画的に取り組むことができた。通常の学習活動の延長線上で自然と取り組めるよう、計画を見直し、改善していく。	A			
	○開かれた学校づくり	⑤地域との協働を進める。学校だよりを年40号以上発行し、ホームページの充実と随時の更新を行う。	⑤学校だより、ホームページの更新において、目標は達成できた。すぐへの活用により、迅速かつ確実な情報提供ができるようになってきた。	B			
	○開かれた学校づくり	⑤地域との協働を進める。学校だよりを年40号以上発行し、ホームページの充実と随時の更新を行う。	⑤学校だより、ホームページの更新において、目標は達成できた。すぐへの活用により、迅速かつ確実な情報提供ができるようになってきた。	B			

学校経営理念	児童にとって「学びたい学校」、教職員にとって「働きがいのある学校」、保護者や地域にとって「応援したい学校」づくりを推進する。
	<目指す学校像> ○確かな学力を育む学校 ○校風・伝統を大切に、気持ちのよい挨拶が交わされる爽やかな学校 ○清掃が行き届いた清潔で美しい学校 ○保護者・地域の人たちから信頼される学校 <目指す児童像> 【知】伝え合い、学び合う子…進んで学び、深く考え、行動できる 【徳】思いやりのある子…自他のよさを認め、互いに協力し合って豊かに生きていく 【体】健やかな子…忍耐強く、健康な心と体をもつ <目指す教師像> ○心身共に健康で、児童に寄り添い、児童と共に前向きに歩む教師 ○豊かな人間性をもち、使命感にあふれた教師 ○確かな学力を身に付けさせるため、創意と工夫を凝らした授業を創造できる教師 ○広い視野と展望をもち、保護者や地域の人たちと積極的に関わることができる教師

	中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
I 豊かな心の育成	(1)自己肯定感の育成や人間関係づくりを図る	①i-check（年2回、1年生のみ12月に1回）を実施し、学級集団の状態を的確に把握して、よりよい学級集団づくりを進める。 ○1回目より2回目の数値を改善 ○i-checkの分布図【個人の安全：自己肯定感及び学級満足感2pt以下グループ】に該当する児童は0名であった。一方、不登校傾向の児童は3名おり、注意深く支援を続けている。本年度は新たな不登校児童が2名確認されており、継続的な支援を続けている。不登校傾向の児童への支援としては、家庭訪問、校内支援会の定期的な開催、スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）・福祉や医療機関との連携を強化し、改善に向けた取組を進めている。	本年度も、i-checkを年2回実施し（1年生は12月に1回）、学級の状況や児童一人ひとりの様子を把握し、より良い学級経営に役立てた。結果として、i-checkの分布図【個人の安全：自己肯定感及び学級満足感2pt以下グループ】に該当する児童は0名であった。一方、不登校傾向の児童は3名おり、注意深く支援を続けている。本年度は新たな不登校児童が2名確認されており、継続的な支援を続けている。不登校傾向の児童への支援としては、家庭訪問、校内支援会の定期的な開催、スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）・福祉や医療機関との連携を強化し、改善に向けた取組を進めている。	B	学校生活の中で、互いのよさに目を向けながら活動する場面が見られる。行事や学級活動などを通して、友達と協力して取り組む姿も見られており、児童が安心して学校生活を送ることができている環境づくりが進められていると感じられる。	B	児童の自己肯定感や自己有用感の向上を図るため、日常の教育活動の中で互いのよさに気づき認め合う機会を大切にしている。道徳科や学級活動、学校行事などを通して、友達と関わりながら考えたり協力したりする活動を充実させる。また、i-check等の結果を活用して児童理解を深め、学級経営の改善に生かしていく。不登校傾向の児童については、家庭との連携を図りながら家庭訪問等を継続するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携した支援を進める。児童一人一人が安心して学校生活を送ることができている環境づくりを継続し、互いを大切にする人間関係の育成に努めていく。
		②道徳教育を充実させる。（授業研究・道徳意識調査年2回） ○道徳意識調査で、「自分にはよいところがあると思う」、「頑張りたいことや目標をもっている」、「友達や家族の役に立ちたいと思っている」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）	各学級において、道徳の授業は計画的に実施され、考えを深め、議論する授業の充実を図った。道徳意識調査の「自分にはよいところがある」という問いに対する肯定的評価は、85.5%Δ（強肯定66.4%Δ）。「頑張りたいことや目標をもっている」は、92.3%Δ（強肯定75.2%Δ）。「友達や家族の役に立ちたいと思っている」は、95.3%Δ（強肯定66.7%Δ）。今後も自分のよさを具体的に振り返らせる場面や、友達から認められる機会を意図的に設定していく必要がある。今後も自己肯定感と自己有用感の一層の向上を目指したい。	B	「友達や家族のために役立ちたい」という意識について肯定的な回答が95%を超えていることは大変よいことである。日頃の教育活動の中で、思いやりや協力の大切さを大事にしてきた成果が表れていると感じられる。	B	
		③人権教育を基盤とした「仲間づくり」に取り組む。（縦割り班活動の充実やことばを大切にすること、縦割り班活動の回数等を昨年度以上実施） ○「ふわふわ言葉・チクタク言葉」の取組を実施し、「ふわふわ言葉」の肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）、「チクタク言葉」の肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）	縦割り掃除、縦割りレクリエーション、全校集会などを計画通り実施できた。「ふわふわ言葉」の肯定的評価は、95.1%Δ（強肯定64.1%Δ）、「チクタク言葉」の肯定的評価は、90.2%Δ（強肯定62.0%Δ）。肯定的評価は目標を上回っているが、強肯定は目標に届かなかった。日常の具体的な場面を取り上げた振り返り活動を充実させる必要がある。児童会活動とも連動させ、主体的な取組へと発展させていきたい。	B	校内を見ていると、掃除の時間に静かに一生懸命取り組む姿をよく見かける。落ち着いた雰囲気の中で掃除が行われており、学校全体で大切にされてきた取組が児童にも定着している様子がうかがえる。	A	
		④学校生活アンケート（いじめ調査）を実施し、指導に生かす。 ○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）、「いじめはどんなことがあってもいけない」肯定的評価100%	年間3回のいじめ調査を行い、日頃の取組を検証しながら指導に活かした。「学校生活が楽しい」と回答した児童の肯定的評価は、94.3%Δ（強肯定70.2%Δ）。「いじめはどんなことがあってもいけない」とする肯定的評価は、98.3%（強肯定88.5）と、高い水準を維持した。なお、いじめによる重大事案の発生はなかった。今後も未然防止と早期発見・早期対応を徹底し、児童が安心して過ごせる環境づくりを継続する必要がある。日常の小さな変化を見逃さない組織的な見守り体制を維持していきたい。	B	学校行事や日常の活動の中で、友達と関わりながら活動する姿が見られる。今後も様々な教育活動を通して、互いを認め合う関係づくりを大切にすることが期待される。	B	
II 学力の向上	(2)読書活動の充実を図る	①朝の読書、読み聞かせ、図書館を利用した授業を実施し、読書好きの児童を育てる。 ○一人あたりの図書貸出し冊数 月平均：低学年15冊、中学年10冊、高学年8冊以上 ○貸出し冊数の学年、学級差がないように読書の習慣を身に付けさせる。	1月末時点の一人あたりの図書貸出冊数は、低学年15.4冊、中学年9.0冊、高学年10.1冊であった。中学年がわずかに目標を下回ったが、概ね目標を達成できた。児童の読書習慣は定着しているが、貸出冊数の少ない学級もあり、引き続き支援や声かけが必要である。中学年への働きかけとして、学級文庫の充実や読書週間の工夫など、興味を広げる取組を進める必要がある。読書の楽しさを実感できる機会をさらに増やしていきたい。	B	読書活動については、図書室の活用や読み聞かせなど様々な取組が行われている。児童が本に親しむ機会を大切にしながら、今後も読書活動の充実を図っていくことが望まれる。	B	児童が読書に親しむ機会を広げるため、図書室の活用や読書週間などの取組を進める。読み聞かせや図書紹介などを通して本への関心を高めることにも、学級文庫などの活用を工夫しながら読書環境の充実を図る。今後も児童が読書の楽しさを感じる機会を大切に、読書習慣の定着を進めていく。
		②あじさいや掃除のできる児童を育てる。 ○時・場・礼アンケート 「チャイム席を守っている」、「無言ですみずみまで掃除できている」、「朝や帰りの挨拶や、返事ができている」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）、「呼びきりせずに名前を呼んでいる」肯定的評価85%以上（強肯定65%以上）	「チャイム席を守っている」の肯定的評価は、97.1%Δ（強肯定64.5%Δ）。「無言ですみずみまで掃除できている」は、95.9%Δ（強肯定73.9%Δ）。「朝や帰りの挨拶や返事ができている」は、95.1%Δ（強肯定68.2%Δ）。「呼びきりせずに名前を呼んでいる」は、88.63%Δ（強肯定60.0%Δ）となった。おおむね目標を達成したものの、「呼びきりせずに名前を呼ぶ」項目では、引き続き意識向上が求められる。	B	挨拶については、来校時などにも気持ちよく挨拶してくれる児童が多く、学校全体として挨拶を大切にしている雰囲気を感じられる。今後も日常の生活の中で挨拶を大切にすることを期待してほしい。	A	
		③「くらしのきまり（学校・夏冬休み）」を遵守する児童を育てる。 ○道徳意識調査「学校のきまりを守っている」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）	「学校のきまりを守っている」の肯定的評価は、96.4%Δ（強肯定58.1%Δ）となり、肯定的評価は目標を達成したものの、強肯定は届かなかった。児童の規範意識は高く、校内での暴力行為などの問題行動は発生していない。きまりの意味や目的を考えさせる指導を充実させる必要がある。自律的に行動できる力の育成を目指したい。	B	学校生活のきまりや約束を意識しながら生活している様子が見られる。日常の指導を通して、児童が自ら考えて行動できる力を育てていくことが大切である。	B	
		④基礎的な生活習慣や規範意識の定着に努める	生活点検における「朝6時半までに起床できた日4日以上」の児童割合は、65.0%となり、目標値には届かなかった。「朝食を食べている」の割合は、91.3%と、目標には届かなかった。生活リズムの確立に向けて、家庭との連携を一層強化する必要がある。生活点検の結果を共有し、具体的な改善策を提示していきたい。	B	登校時刻については、比較的早い時間に登校している児童が多く、生活リズムが整っている様子がうかがえる。今後も家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着に向けた取組を継続していくことが大切である。	B	基本的な生活習慣や規範意識の定着を図るため、日常の学校生活の中で継続した指導を行う。挨拶や返事、時間を守るなど、掃除に取り組むことなど学校生活の基本となる行動について全校で共通理解を図りながら指導を進める。また、生活点検の取組を通して家庭と情報を共有し、生活リズムの確立に向けた取組を進める。学校のきまりについては守ることだけでなく、その意味や目的について考える機会を大切に、自ら判断して行動できる力の育成を図る。今後も日常の指導を大切にしながら望ましい生活習慣と規範意識の定着に努めていく。
III 学校への信頼	(1)子どもたちが自ら考え表現でき、伝え合い、学び合いのある授業の創造を図る	①児童の考えや表現を大切に伝え合い、学び合いのある授業を行う。（東小学校授業スタンダードの実施） ○学校生活アンケートで、「授業がわかる」、「授業に主体的に取り組んでいる」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）	児童が自ら考え、表現し、伝え合い、学び合う授業を推進してきた。「授業がわかる」の肯定的評価は、94.7%Δ（強肯定59.2%Δ）、「授業に主体的に取り組んでいる」は96.3%Δ（強肯定58.0%Δ）であった。振り返り活動の質を高め、達成感を実感させる指導を充実させる必要がある。授業改善を継続し、主体的な学びを一層進めていきたい。	B	授業では、自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりする場面が見られる。児童同士が関わりながら学びを深めていく授業づくりを今後も大切にしていきたい。	B	児童が主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現しながら学び合う授業づくりを進めている。考えを伝え合う活動や振り返りの場面を大切にしながら思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、ICT機器の活用については学習内容の理解を深める視点から効果的な活用方法を研究し、授業改善につなげていく。
		②教科等の学習で、ICTを活用した授業や校内研修を充実させる。 ○低・中・高ブロックに別研究授業を行う。 ○ICT（クラウド、児童用タブレットPC、電子黒板等）活用に関する研修を深め、授業改善につなげる。 ○「タブレットを学習に活用することができている（4年生以上）」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）	低・中・高ブロックごとの研究授業を全教員が実施し、ICTを活用しながら「見方・考え方」や「思考・判断・表現力」の育成を意識した授業改善を進めた。児童用タブレットや電子黒板の活用に関する教員研修も計画的に行い、児童用タブレットの持ち帰り、ミライシード（AIドリル）の実施、タイピング練習などを通じてICT活用能力と学力向上に努めた。また、4年生以上の「タブレットを使って調べたり学習したりすることができる」肯定的評価は92.6%（強肯定50.8%）。ICT活用を目的化せず、学習の質の向上につながる活用方法をさらに研究していく必要がある。情報モラル教育も併せて充実させたい。	B	タブレット端末などICT機器を活用した学習も進められている。学習内容に応じた活用を工夫しながら、児童の理解を深める授業づくりを進めていくことが期待される。	B	
		③基礎的な学力の定着を図るため、宿題プリントの実施や放課後の加力指導に取り組んだ。放課後も、学習支援が必要な児童には個別指導を行い、朝の加力指導も保護者や地域（地域学校協働本部）の協力を得ながら計画的に実施した。今後の取組の成果を検証し、より効果的な指導方法へと改善していく必要がある。家庭との連携を継続し、学習習慣の確立を支えていきたい。	基礎学力の定着を図るため、宿題プリントの実施や放課後の加力指導に取り組んだ。放課後も、学習支援が必要な児童には個別指導を行い、朝の加力指導も保護者や地域（地域学校協働本部）の協力を得ながら計画的に実施した。今後の取組の成果を検証し、より効果的な指導方法へと改善していく必要がある。家庭との連携を継続し、学習習慣の確立を支えていきたい。	B	学力調査などの結果をもとに、授業改善に取り組んでいる様子が見られる。児童の理解を確かめながら指導方法の工夫を続けていくことが望まれる。	B	基礎学力の定着と学力向上を図るため、日常の授業において基礎基本を大切にした指導を継続する。各種学力調査の結果を分析し、児童の学習状況を把握するとともに指導方法の改善に生かしていく。また、朝や放課後の時間を活用した補充学習等を通して個別に応じた指導の充実を図る。特別支援教育については校内支援会を中心に教職員間の情報共有を進めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携を図りながら支援体制の充実を図る。組織的な取組を大切にしながら児童一人一人の学びを支えていく。
		④特別支援教育に全校体制で取り組む。 ○定期的（月1回以上）に校内支援会を開催する。 ○SCやSSW、特別支援教育巡回アドバイザー等との連携を密に取り、チームで課題解決にあたる。	特別支援教育に関する研修や、支援が必要な児童への共通理解・共通実践を進めた。校内支援会も月1回以上開催し、課題の共有を行った。また、SSWやSC、森田村塾、福祉事務所、医療機関との連携を強化し、巡回教育相談も活用しながら、組織的な課題解決に努めた。今後も関係機関との連携を密にし、早期対応を徹底する必要がある。教職員間の情報共有を一層充実させ、支援の質の向上を図りたい。	B	個に応じた支援についても校内で情報共有を図りながら取り組まれている。児童一人一人に応じた丁寧な指導を継続していくことが期待される。	B	
(3)家庭学習の習慣化を図る	①家庭と連携し、家庭学習が習慣化されていない児童について、家庭学習の支援を行う。 ○家庭学習を「しな」児童の割合を0%にする。 ○タブレットの持ち帰り（個に応じた学びの保証）	家庭学習を全く行っていない児童は0名であった。宿題忘れは若干見られたものの、家庭学習の習慣は概ね定着している。また、高学年においては、タブレットの持ち帰りが定着しつつある。今後は自主的な家庭学習の内容充実を図るとともに、計画的に取り組む力の育成を目指す必要がある。学習ログの活用などにより、家庭と連携した支援を進めていきたい。	B	家庭学習については、宿題や家庭での学習を通して学習習慣を身に付けることが大切である。学校と家庭で連携しながら継続した取組を進めていくことが望まれる。	B	家庭学習の習慣化を図るため、宿題や家庭での学習の内容を工夫し児童が継続して取り組めるよう指導を行う。タブレット端末の持ち帰りなども活用しながら学習機会を広げるとともに、家庭と連携しながら学習習慣の定着を図る。児童が主体的に家庭学習に取り組む機会を確保していきたい。	
	②児童にとって安全で安心できる学校づくりを行う。 ○学期ごとに安全点検を行う。 ○避難訓練（防災・防犯）を年間5回以上行う。	参観日や運動会などの学校行事、学P行事、体験学習は、人数制限なく計画通り実施することができた。学年懇談の内容については、各学年が文書を通じて家庭へ周知した。保護者アンケートの「学校は保護者の意見を聞き、学校運営に反映していると思うか」の肯定的意見は84.6%。保護者の意見をより丁寧に、具体的な改善につなげる仕組みを強化する必要がある。双方向のコミュニケーションを意識した取組を進めたい。	B	学校だよりや学年通信などを通して、学校の様子を伝える取組が行われている。今後も保護者との連携を大切にしながら教育活動を進めていくことが期待される。	B		
	③保護者や地域の方々の学校支援の充実を図る。 ○コミュニティ・スクール、地域学校協働本部事業を計画的に進め、学校・家庭・地域が連携し、地域住民の参画による学校運営を推進する。 ○持続可能な体制づくりを進めながら、ボランティア活動を推進する。	コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の取組は、計画通り進めることができた。朝のふれあいや読み聞かせ、授業支援や学校行事のサポートなど、保護者や地域の協力を得ながら実施された。本校の教職員だけでなく、児童も地域の支援に感謝しており、地域とともにある学校づくりを推進している。今後も地域人材の活用場をさらに広げ、教育活動の充実につなげる必要がある。持続可能な連携体制の構築を目指し、継続的な協働を進めていきたい。	B	保護者や地域の協力を得ながら学校運営が進められている。今後も保護者の協力を大切にしながら、持続可能な連携体制づくりを進めていくことが重要である。	A		

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	【学校経営理念】 子供一人一人の存在を大切にする学校づくり 【学校経営方針】 一人一人のよさや違いを認める。子供が学校に来たくなるような授業や行事を行う。チームで子供の育ちを支える。 【学校教育目標】 笑顔と「ありがとう」があふれる学校 【目指す児童像】 思いや考えを表現しようとする子 自分や友だちを大切にする子 あきらめないでがんばる子
------	---

短期計画目標(到達指標)	具体的な取組	学校の自己評価		学校関係者評価		年度末検証(改善策等)
		達成状況	評価	考 察	評価	
1.教員の教科等指導力の向上 ・各種学力調査の国語・算数の正答率が全国平均以上 ・学校生活アンケート「授業に主体的に取り組んでいる。」 70%	1.教員の教科等指導力の向上 (1)全教員授業公開(年1回) ・全校研国語3本(2・4・5年) ・ブロック研3本(1・3・6年) ・学年研 (2)各種学力調査の結果を基に、強みと弱みを分析し、授業改善を図る。 ・分析会や校内研修(年4回以上実施)	・全国学力学習状況調査平均全国値比 6年 国66.0(-0.8)・算56.0(-2) ・高知県学力定着状況調査平均全国値比 4年 国71.8(+1.4)・算67.3(+1.6) 5年 国71.3(+2.2)・算63.0(+1.0) ・理57.2(-8.2) ・標準学調平均全国値比 1年 国73.7(-1.2)・算82.8(+4.2) 2年 国75.6(-3.7)・算64.0(-7.3) 3年 国75.7(-1.0)・算70.1(-2.6) 6年 国64.8(-6.0)・算70.2(-2.9) ・学校生活アンケート「授業に主体的に取り組んでいる。」 87.4%	C	・国語については、学校での学習ということとは別に、家庭で小さいころから自分の思いを言語で表現する事、家庭での時間の使い方の変化などにより、子どもの語彙力の低下なども考えられる。AIに頼りすぎず、自分でまず考えて表現する事のできる子どもの育成にこれからも期待したい。 ・全体的にマイナスが多いのは気になる部分で改善点は多い。 ・目標を下回っている以上は、評価は下げざるを得ない。国語力は学問の基礎である。 ・スマホで簡単に動画にアプローチできる環境ではあるが、本を読む事でしか得られない要素をいかに伝えるか、行間にこそ魂は宿ると思う。	C	○それぞれの学年でクラウドを活用した学習者主体の授業を行えるような様々な教科で教材研究を行うことができた。その結果、児童が授業に主体的に取り組めたとする。 ●全国学力学習状況調査や高知県学力定着状況調査を見ると全国平均以下の学年が増えている。観点別で見ると、思考・判断・表現に弱さが見られる。クラウドを使った授業づくりに取り組んだが、資質・能力を付けるための効果的な使い方ができていなかったことが要因としてあげられる。また、直し等を最後までさせることができずに終わってしまっている現状も見られる。次年度は各教科等の目標を達成するための効果的なICT活用を進める。また、基礎基本の定着を大切にする事を全教員で共有する。
2.1人1台タブレット端末を「日常的」に活用する授業実践・教育活動の推進 ・ICTやクラウドの特徴を効果的に活用した授業づくり研修・実践交流・授業チェックシート「ICT機器やクラウド環境を効果的に活用している。(3.5以上)	2.デジタルドリル活用(のいちっ子タイム・家庭学習) (1)定期的な活用 ・低学年…週1回以上持ち帰り ・高学年…週2回以上持ち帰り週1回以上のいちっ子タイムでの活用 ・長期休みの持ち帰り学習 (2)ICTを効果的に活用した授業改善 (3)ICT活用自主研修実施	授業評価アンケート「ICT機器やクラウドを効果的に活用している。」3.8 ・単元計画の提示・配信の実施。 1・2年生：紙媒体 3年生以上：スプレッドシート ・1年生は国語や算数・生活科でスプレッドシートやオクリンクを活用。 ・2年生以上も、国語を中心にスプレッドシートやオクリンク、キャンバ、スライドなどで考えの共有や振り返り等に使用。 ・2年生以上 週に1回以上の持ち帰り学習。予習や復習、自主学習等に使用。 ・長期休業中 全学年デジタルドリル学習を実施。 ・学校情報化優良校の申請中。 ・校内・校外でDX研修を実施。 ・「タイピングタイム」を実施。 ・「ゲートルドライブ」内の共有フォルダの整理。 ・野市小ポータルサイトの活用。	B	・今の操作量で十分ICTを活用していると思う。これから先、大学入試がどのように変化していくか分からないが、現状では、紙ベースの文章を読み解く出題形式が国語だけでなく、数学や理科などでも求められているので、デジタルでの課題とともに読み聞かせや図書の活用との連携を意識していけたらデジタルでの活用に十αの力が期待できるのではと思う。 ・デジタルに慣れてくると、対話力や文章力など低下していると感じる。デジタルとアナログ、それぞれのよさを生かした学びのバランスも大切だと思う。 ・試行の連続ではあるが、常に手段が目的かしない様、客観的な視点をもってほしい。	B	○教材研究から効果的にICTを使えるよう各学年で取り組むことができた。実践後、効果的であったかを協議することで、日々の実践につなげることができた。児童、教職員ともにICT活用が飛躍的に進んだ1年であった。 ●この1年は、クラウドを活用した授業に挑戦しているところで、児童の資質・能力を向上させるために効果的なICTの使い方ができているとは言えない。今後は、学習データを使った授業改善に加え、児童自身が学習データを使った個別最適な学習を進めていけるような工夫が必要だと考える。
1.生徒指導の充実 ・道徳意識調査「自分のよいところ」 肯定87%以上 ・学校教育診断アンケート「学校が楽しい」 強肯定68%以上	1.生徒指導の充実 (1)学級経営に関する研修の実施、生徒指導上の四つの視点を意識した授業づくり、互見授業の実施(年3回以上) (2)学校行事・集会等の充実を目指す児童会活動を実施 ・なかよし班集会・全校集会の実施(月1回以上)	・道徳意識調査「自分にはよいところがあると思う」 肯定78.7% ・学校教育診断アンケート「学校が楽しい」 強肯定63.0%	B	・小学校の先生方は「ダメなことはダメ」「相手を大切にする」という事を伝えてくれているように感じる。 ・子ども達が学校生活を楽しみながら主体的に取り組んでいると感じている。掃除の縦割り班活動では、高学年が責任をもって取り組む姿が見られ、やりがいを感じながら、一生懸命活動しているようだ。 ・学校が楽しいと思う割合はこれまで高かったが低くなった原因は何だろう。	B	○全校夏祭りやなかよし班集会の中で、自分たちで計画を立て、準備していく活動を通して、楽しく学校生活を送ることができた。 ○縦割り班掃除を実施することで異学年交流をする機会を増やすことができた。 ●道徳意識調査の「自分にはよいところがある」、学校教育診断アンケートの「学校が楽しい」肯定の割合が昨年度より下がってしまっている。この要因を考え、検討していく必要がある。
2.いじめの防止 ・道徳意識調査「いじめはいけないう」 肯定95%	2.いじめの防止 (1)いじめ重大事態化防止研修の実施 (2)学校生活アンケートや道徳意識調査等を通じた問題の早期発見・改善 (3)道徳アンケートと、それを基にしたいじめに関する道徳の授業・検証を実施(年2回)	・道徳意識調査「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。」 肯定96.6%	B	・トラブルに対する対処、聞き取り等保護者対応も素早くしていると感じる。 ・ほぼ目標に到達している。	A	○いじめに関する研修を行い、野市小学校の「学校いじめ防止基本方針」を確認し修正することができた。 ○修正した方針を職員会で共有し、未然防止や早期発見に向けた取組やいじめ発見後の流れを確認できた。 ○日々の問題の早期発見・改善を図る取組ができています。 ○道徳の授業や日々の学級経営を通していじめは絶対にいけないという意識を持つ指導をすることができている。 ●道徳意識調査を実施後、課題があった項目についての授業を実施できたか、把握していく必要がある。
3.不登校の予防と支援 ・「ユニバーサルチェック自己診断」5つの事項の実施率の平均達成率90% ・新規不登校5名以下	3.不登校の予防と支援 (1)教室内の1次支援を意識 ・チェック表を用い、教室1次支援の状況を学期ごとにチェック実施率 100% (2)児童の欠席状況を全教職員が把握。気になる児童は早期に支援会開催。対応策検討。 (3)不登校が理由で欠席(連続3日以上)した児童の支援会等を開催 100%	・「ユニバーサルチェック自己診断」5つの事項の実施率の平均達成率100%※2学期末 ・新規不登校 3名※2学期末 ・不登校児童10名※2学期末	B	・支援会等も実施して対応されていると感じる。 ・ユニバーサルチェック自己診断は目標をクリアしているし、不登校も高い目標をクリアしている。Aで良いと思う。	A	○児童の欠席状況等を職員会や学年主任会等で共有をしたり、不登校が理由で欠席(連続3日以上)した児童の支援会等開催したりすることで、丁寧なアセスメントと具体的な支援の方法を共有することで、新規不登校児童を減少させることにつながったと考える。 ●昨年に比べ、新規不登校や不登校の減少が見られたが、依然として一定数の不登校児童がいるため継続して取り組む必要がある。生活リズムの乱れや、家庭の事情による長期欠席の児童も一定数いるので、今後も関係機関との連携強化に努め、改善につなげる必要がある。

経営理念	<p>【学校経営理念】 子供一人一人の存在を大切にしている学校づくり</p> <p>【学校経営方針】 一人一人のよさや違いを認める。子供が学校に来たくなるような授業や行事を行う。チームで子供の育ちを支える。</p> <p>【学校教育目標】 笑顔と「ありがとう」があふれる学校</p> <p>【目指す児童像】 思いや考えを表現しようとする子 自分や友だちを大切にしている子 あきらめないでがんばる子</p>
------	--

短期計画目標(到達指標)	具体的な取組	学校の自己評価		学校関係者評価		年度末検証(改善策等)	
		達成状況	評価	考 察	評価		
体	<p>1.体力と技能の向上</p> <p>・体育アンケート「体育の授業で目標やめあてを示している」「やってみようの活動を実施している」において肯定85%以上</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、全校のD・E層のうち、特に低い項目2つの運動に取り組み、5%向上を目指す。</p>	<p>1.体育の授業力向上</p> <p>(1)「うちの子ども体力・運動能力向上プログラム」活用方法の提案(学期ごと年間2回)</p> <p>(2)体育の「のいち授業スタンダード」定着を図り授業改善に努める。(授業提案年間2回)</p>	<p>・「体育の授業で目標やめあてを示している」「やってみようの活動を実施している」 肯定100%</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査全校D・E層 男子38.5% (D23.1%、E15.4%) 女子35% (D30.0%、E 5.0%) ※昨年度: 男子41.5%、女子35.3%</p>	B	<p>・体育の授業等とも関連付けながら、冬の校内での衣服の調整など子どもが自らの健康や体調に関心をもてるようにしてほしい。</p> <p>・大規模校ならではの難しさの中で、一定の結果は出ているのではないかと。</p>	B	<p>○公開授業を各学年の体育担当教諭が参観し、体育担当教諭から各学年に「うちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の取り入れ方を確認するとともに、「のいち授業スタンダード」の再確認を行うことができた。</p> <p>○「体づくり運動」について公開授業を行ったことにより、体力向上に向けた授業の進め方を確認できた。</p> <p>●今年度の指標では、年度内に課題に対する改善が難しく、また年度が変わると対象児童も変わってしまうため、別の指標を設定する必要がある。</p>
	<p>2.健康教育</p> <p>・生活がんばりカード「早寝3日以上」 達成68%以上</p> <p>・生活がんばりカード「早起き3日以上」 達成70%以上</p> <p>・「メディアの視聴時間2時間以内3日以上」 達成70%以上</p>	<p>2.健康教育</p> <p>(1)生活・体力がんばりカードの結果を基に保健指導を行う。 ・生活・体力がんばりカード年3回実施。 ・身体測定時の保健指導年1回実施。</p> <p>(2)家庭への啓発活動 ・保健だより年12回以上発行。</p> <p>(3)全校集会で啓発活動を行う。</p>	<p>・生活がんばりカード「早寝3日以上」 63.5%</p> <p>・生活がんばりカード「早起き3日以上」 72.0%</p> <p>・「メディアの視聴時間2時間以内3日以上」達成 74.7%</p>	B	<p>・野市地域は物質面では豊かな子どもが多いように見えるが、安全で健康に過ごし、自分の身体能力を伸ばすことにも余裕のある子どもは親の生活実態からも年々できる家庭と、ともすればネグレクト寸前のような家庭まで高低差が出てきているように思う。是非、児童がセルフケアを意識していけるような話を先生方に学校でしてほしい。</p> <p>・身体測定結果を知らせてくれるのは、年3回(1年間)でどれだけ成長したのか分かるのでとてもよい。親子の会話にもつながっていると思う。</p> <p>・家庭に危機感を持たせるアプローチが県全体で必要。高知県の保護者は「甘い」と感じる事がよくある。</p>	B	<p>○実施に合わせて、メディアや睡眠・朝食について保健指導や栄養指導を実施し、児童に取り組みへの意識を高めることができた。家庭への啓発活動として、メディアの影響や外部講師による健康に関する学習の様子について保健だよりでお知らせしたり、メディアの使い方について保健委員会児童が全校集会で発表したり、保健だよりを作成したりして啓発を行うことができた。</p> <p>●生活リズムは、保護者の生活環境が影響するため、改善が難しいが、今後も継続して指導していく必要がある。睡眠とメディアの影響について、次年度から5年児童対象に外部講師による講演を計画予定である。</p>
基盤となる体制等	<p>1.防災を中心とした安全教育・安全管理の充実</p> <p>・「学校は防災学習・交通安全・不審者対応などの安全教育に力を入れていると思いますか。」で85%以上(保護者)</p> <p>・「地震や火事の時どうすればよいか分かる。」で95%以上(児童)</p>	<p>2.防災を中心とした安全教育・安全管理の充実</p> <p>(1)防災参観日で、全学年で引き渡し訓練の実施(年1回)</p> <p>(2)実践力向上を目指した避難訓練の実施(年3回以上)</p> <p>(3)外部機関を活用した不審者研修の実施(年1回)</p>	<p>・「学校は防災学習・交通安全・不審者対応などの安全教育に力を入れていると思いますか。」 88.0%</p> <p>・「地震や火事の時どうすればよいか分かる。」 95.0%</p> <p>・避難訓練及び引き渡し訓練を予定通り実施。</p>	B	<p>・防災訓練等を実施できている。また野市小の子どもは交通安全の意識は高いように思う。</p> <p>・学校のやるべき事は子ども達の安全と被災後、1日でも早く教育環境を回復させることだと思う。</p>	B	<p>○すぐるを使つての家庭へのお知らせは7回、学校だより・学年通信等を通して年間8回以上、避難訓練の前後に保護者に向けてお知らせすることを通して、肯定的評価が向上した。</p> <p>○地震・火災の避難訓練を3回行い、その中で消火訓練やシューター訓練を取り入れることで、どのように行動すればよいか、が身に付いた。</p> <p>●前年度踏襲ではなく、不審者対応訓練を児童と共に実施したり、想定外の状況を設定した避難訓練や火災訓練等を計画したりする必要がある。</p>
	<p>2.ワークライフバランスと働き方改革の推進</p> <p>・時間外勤務時間月45時間・年360時間以内を遵守できた教員の割合70%以上</p>	<p>4.学校における働き方改革の推進</p> <p>・時間外勤務時間が特に多い教職員への定期的な働きかけ・面談の実施。 ・業務改善検討委員会の設置(年3回以上実施)</p>	<p>・時間外勤務時間270時間以内の教職員の割合 約30パーセント※2学期末</p> <p>・業務改善検討委員会を実施。 ・行事・会議の削減・効率化に向けて定期的に検討・実行。</p>	B	<p>・先生方は、早く帰っても自宅で仕事をしているのではないかと心配している。よい案が浮かぶ訳ではないが、先生方の働き方については学校だけでなく教育委員会等が全体としての事務量の削減等を行う必要があると思う。</p> <p>・根本的残業を抑制する方法がない環境で、ある意味無理難題を現場に丸投げの現状では、無条件によくやっていると言わざるを得ない。言う管理職も言われる職員もネガティブな反応しか出ない。包括的で抜本的な現状に合わせた労務管理を国が提示できていない以上、あまりこのことで学校のリソースを割かれるべきではない。業務の見直しとは別。常にPDCAを回す必要はある。</p>	B	<p>○行事・会議の削減・効率化に向けて定期的に検討・実行することができている。今後も業務改善検討委員会等を定期的に開催していく。</p> <p>●行事の精選等、業務改善とともに、教職員自らが自身の働き方について改善する努力も必要である。一斉退職日に予定通り退職するために「見通しをもって働く」ことを教職員自身が身に付けていく必要がある。</p>
	<p>3.教職員のメンタルヘルス対策の推進</p> <p>「自分自身の仕事に対し、やりがいを感じている。」と回答する教員 92%以上</p>	<p>3.教職員のメンタルヘルス対策の推進</p> <p>・臨機応変な面談の実施 ・若年教職員へのサポート体制の充実</p>	<p>・「自分自身の仕事に対し、やりがいを感じている。」と回答する教員 93%</p>	B	<p>・先生方が1人で困らないためにも、トラブルや問題があれば運営協議会や外部専門機関等これからも活用してほしい。</p>	B	<p>○管理職と教職員の面談、メンター会や学年会等で教員同士による支援・サポートが行われた。</p> <p>●校時表の見直し等を行い、教師の本分である授業改善のための時間が確保できるようにしていく。</p>
	<p>4.保幼小の円滑な連携・接続の推進</p> <p>・各学期1回以上の交流実施 ・校内研修への参加年2回以上</p>	<p>3.保幼小が互いの教育内容を理解し合う取組を実施</p> <p>・1学期中に年間の交流予定を各園と相談・決定。 ・新任者や各学年から1名以上、保育士体験や校内研修へ参加。</p>	<p>・年3回以上の交流実施。 ・野市幼稚園や野市保育所研修に校長・主幹教諭が参加。 ・野市保育所保育士体験・園内一日研修参加。</p>	A	<p>・引継ぎ等の実施もされておりよいと思う。</p>	A	<p>○年間の予定通り、交流や保育所と幼稚園の校内研修への参加、引継ぎの実施ができた。</p> <p>●長期休業中の研修には参加できるが、平日の研修への参加は難しい。検討課題である。</p>
<p>職場風土づくり</p> <p>・継続的な研修の実施 ・教職員による不祥事件数(0件)の継続</p>	<p>・不祥事を生じさせないための研修(学期に2回以上実施)</p>	<p>・不祥事防止委員会の計画に基づき、毎月研修を実施。県内の不祥事案について校内で周知。 ・長期戻入案件あり。</p>	B	<p>・不祥事0であれば、それ以上の評価はない。子供の手本である事を意識することが保護者以上に求められる。</p>	B	<p>○毎月研修を実施するとともに環境整備を定期的に実施し、校内での不祥事が起こらないように全教職員で協力した。</p> <p>●今後は、「諸手当における支給要件の変更及び喪失に関する適切な届出手続」の研修を複数回実施する。</p>	

経営理念	【学校経営理念】 学び合い・関わり合い、自ら伸びる学校づくり
	【学校経営方針】《学び合い》学んで“たかまる”学校 《関わり合い》関わり“つながる”学校 《自ら伸びる》夢を語り“ひろがる”学校
	【学校教育目標】 伝え合い 学び合う 佐古小学校

短期計画 目標(単年度の到達指標)	具体的な取組	自己評価			学校関係者評価		年度末検証
		目標指標達成度	到達状況	評価	考察	評価	
知	①算数科の授業研究を基盤として主体性を伸ばす授業づくりを行う。	【全国学力学習状況調査正答率】 国語： 全国66.8%、高知県68%、自校64% 算数： 全国 58%、高知県59%、自校52% 算数は平均を下回った。 【高知県学力学習状況調査正答率】4年 国語+2.9、算数-1.9 5年 国語+5.8、算数+11.1、理科-1.9 【12月実施：標準学力調査正答率】1年 国語 +7.5、算数 +14.4 2年 国語 +9.7、算数 +10.6 3年 国語 +6.0、算数 + 6.8 6年 国語 -2.9、算数 - 5.2 【アンケートより】 ①授業に主体的に取り組んでいる肯定94.5%(目標値-1.5%) ②授業がよく分かる肯定95.5%(目標値+1.5%) ③話し合いを通じて、友達の見解を参考にし、自分の考えを広げている肯定86.7%(目標値-4.3%) ④算数の授業に主体的に取り組むことができた肯定91.9%(目標値+1.9%)	①学習指導要領を基に、既習と未習とのズレを意識した授業づくりを全教員で確認しながら取り組むことができた。また、全校研・ブロック研を実施することで主体性を伸ばす算数の授業づくりについて指導力を向上させた。 ②複数の学習用具(タブレットやノート等)や個人ペア、グループなどの学習形態を児童が選択できる授業をする教員が増えている。 ③条件作文等を通して「書くこと」に重点を置いた指導を行うことができた。 ④学習支援が必要な児童を対象として、算・国教室や放課後等の個別指導を行った。「家庭学習すすめ」を配布して家庭学習の習慣化を図ったり、自主学習ノートや算数ノートの掲示をしてよい見本を紹介したりした。 ⑤東部教育事務所の支援訪問による学力調査の結果分析についての研修を7月と1月に全教員で取り組むことにより、課題や指導改善について共通認識を持つことができた。また、7月の研修後に取り組みについて話し合い、全校で取り組んだ。 【アンケートより】 ①主体性について学年に沿った内容を考え授業づくりをした。全校研・ブロック研の事後研では、児童の主体的に学ぶ場面について重点的に話し合った。 ②ICT活用について、DX担当が中心となり研修を生成AIの活用や校務の活用などについて研修を行い、理解を深めることができた。また、各学級でのICTの活用の交流を行った。 ③全校での取り組みに基づき、学年に応じた内容で取り組むことができた。 ④算数言葉で説明させることの重要性を研修に取り組む中で改めて確認した。各学年で授業の中で算数言葉を児童に意識させて説明をさせる場面を取り入れた。	B	○学力調査について、達成できていない学年もあるが、全体的に学力は昨年度よりも向上傾向にある。先生方の対応や取組の成果が出ている。 ○学校全体に、落ち着いて学習できる雰囲気が作れているので今後も検証と改善を繰り返しながら、子どもたちに学力が定着する取り組みに向上させていって欲しい。 ○タブレット活用について有効な活用の仕方を今後も探っていって欲しい。	A	○全教員が公開授業を行うことができた。 ○学力調査の結果を分析し授業改善につなげることができた。 ○基礎的・基本的な内容の定着や、単元によって思考力を問う場面において、一定の成果が見られた。授業改善や教材研究、個に応じた支援の積み重ねが学びに着実に繋がっている。 ○知識・技能の習得にとどまらず、学び方を学ぶ指導を全教員が意識的に取り入れること、子ども自身も学習を振り返り、次の学びにつなげていく自立した学習者の育成に今後取り組んでいきたい。 ○東部教育事務所の支援訪問による指導助言を聞き、研究主任や学び部長が中心となって本校の課題解決に向けて取り組むことができた。
	②児童一人一人が学び方を学び、学ぶ力を育成する授業を行う。						
	③書くことに重点をおいた実践を計画的に行う。						
	④標準学力調査・全国学力状況調査・高知県学力定着状況調査を分析して課題対応を行う。						
	⑤校外研修に参加し、研修内容を校内で伝達する。						
	⑥ICTを積極的に活用し指導力向上に取り組む。						
	⑦学習支援が必要な児童を対象に、通級指導教室や放課後等の個別指導を行う。						
徳	①「考え、議論する」道徳の授業実践をめざした授業改善を行う。	「学校が楽しい」 96.9%未達成(-3.1) ①「道徳の授業が好き」 93.5% 達成(+3.5) ②「みんなで何かをするのは楽しい」 96.9% 達成(+6.9) ③「誰にでもすすんであいさつができる」 91.6%未達成(-1.4) ④「学校の先生は話を聞いてくれる」 100% 達成(+7.0)	①クラスの実態に合わせた授業づくりのための授業研究や、道徳参観に教員それぞれが取り組んだ。 ②目標は達成できたが、縦割り班での異学年交流をもっと進めたいという意見もある。場の設定が今後の課題である。 ③あいさつ運動を学校地域が連携して行うことができた。今後も日常的に挨拶が出来るよう、意識化を図っていくようにする。 ④今後も児童に寄り添った関係づくり、指導を継続していく。	B	○「学校が楽しい」は96.9%(昨年度は90.2%)で指標には届いていないが、取り組んでいる内容は大変良いもので評価ができる。先生方は様々な工夫をしながらよく頑張っていると思う。 ○月1回のあいさつ運動が定着している。 ○あいさつができる子どもが増えている。また、言えない子どもも、領いたり、にこっとしたりして意思表示ができるようになっていく。その一方で、教員のあいさつに元気を感ぜないことがある。先生が良いモデルになって欲しい。	B	○参観日や公開授業の際に、道徳の授業公開を行うことができた。 ○道徳意識調査の検証により各学年で改善点等を話し合い取り組むことができた。 ○あいさつができる子どもが増えている。保護者の意識調査において「誰にでもあいさつができる」の肯定的評価が87.3%(昨年度86.6%)で少しはあがるが、実感する保護者が増えている。今後も、さらに取り組むの工夫を進めていきたい。 ○計画的に支援会を実施するなど、しんどさを一人で抱えこまない風土づくりが定着している。
	②あいさつの日常的な意識化を図る取組を工夫し継続して行う一日の中で児童が夢中になって取り組める授業や活動できるように工夫する。学級活動や行事、縦割り班活動の充実を図る。						
	③ありがとうカードを学期に1回取り組み、学年を超えた交流の機会も持ったり友だちのよいところ見つけを継続的に行ったりする。						
	④子どもと話すときは、視線を合わせきちんと向き合うことを意識する。						
体	①体育の時間に帯びタイムを設定し「体力アップチャレンジカード」や「こうちの子とも体力・運動能力向上プログラム」に取り組む。	■体育の授業が好き 90.5% ■学校のきまりを守って生活している 92.9%	■体育の授業について ・水泳学習では、「できた」「できそう」を経験できた。他の単元や領域でもそのような機会をもつことができるように引き続き教職員へ周知していく。 ・マット運動についてメンター会で取り上げ、若手の先生たちへ指導、助言を行うことができた。 ・ゲーム領域では、得点することに重きを置いたルールや場の設定を行うことができた。 →体育が得意な先生が若手の先生方に指導助言をすることで、単元や領域ごとのポイントを理解できる。それが、体育好きにつながるの、そのような場を設けることが大切だと考える。 ■学校のきまりを守る ①体育の服装のきまりを簡素化したり、学期はじめに共通理解を図ることができた。きまりを固定するのではなく、教職員や児童から出た意見をもとにアップデートしていく感覚が今後も必要。 ②きまりや約束が守れていないときに、学級指導で終わらせていたので、体づくり部から全校放送をすることを考えていく。	B	○日常的に体力向上を図る取組を工夫し行って欲しい。 ○熱中症や水泳での事故があった中、準備や研修等、大変だったと思うが、計画通りの授業ができたことを聞き、ほっとしている。先生方の日々の取組や努力に感謝する。	B	○熱中症や水泳での事故を受け、準備や体制づくりが必要だったが、体づくり部が中心となり各担任等が連携・協力しながら計画通りの授業実施ができた。安全面を考慮する組織的な体制づくりの構築ができた。 ○何のためにきまりがあるのかなど子どもに考えさせる機会を作ること、工夫した取り組みができた。
	②メンターチーム会等で体育の授業についての研修を実施する。						
	③校内のきまりを精査し、教員や児童が共通理解を図り周知の場を大事にする。						

経営理念	【学校経営理念】 学び合い・関わり合い、自ら伸びる学校づくり
	【学校経営方針】《学び合い》学びて“たかまる”学校 《関わり合い》関わり“つながる”学校 《自ら伸びる》夢を語り“ひろがる”学校
	【学校教育目標】 伝え合い 学び合う 佐古小学校

短期計画 目標(単年度の到達指標)	具体的な取組	自己評価			学校関係者評価		年度末検証
		目標指標達成度	到達状況	評価	考察	評価	
基盤となる体制等 【働き方改革の推進】 教職員の時間外 在校等時間が月平均40 時間未満にする。 【安全教育・安全管理の充 実】 「いつどこで地震が発生し ても、自分の身を守ること ができる」 100% 「学校は安全意識を高める 取組をしている」 強肯定60%以上 【家庭・地域との連携】 「学校は家庭への情報提 供を積極的に行っている」 強肯定70%以上 「学校は子供たちや保者・ 地域住民の意見を学校 運営に反映している」 強肯定50%以上 学校日より、学年日より 月1回発行 校長日より 月4回以上発行	①メンター制と教科担 任制の効果的な運用 について研究を進め、 勤務時間外在校等時 間の減少につなげる。 個別面談を通して、働 き方改革への意識向 上を図る。 ②県学校安全プログラ ム等を参考としなが ら、学年の系統性を考 えたカリキュラムに改 善する。地域の防災課 題に応じた危機管理 マニュアルの見直しを 行う。 ③地域学校協働活動 の充実 ・学校運営協議会を定 期的に開催し、コミュ ニティスクールの定着 と地域学校協働活動 の促進を図る。 ・コミュニティスクール に関する啓発活動 を行う。 ④いじめや不登校をつ くらない組織的な仕 組みや、取組を行う。	①教職員の時間外在校等時間は、月 平均29.4時間 ②「いつどこで地震が発生しても自分 の身を守ることができる」 100% 「学校は安全意識(防災、交通安全、 生活安全)を高める取組をしている」 強肯定 61% ③「学校は家庭への情報提供を積極 的にしている」 強肯定 61% 「学校は子供たちや保護者・地域住民 の意見を学校運営に反映している」 強肯定36.9% 学校日より、学年日より 月1回発行 校長日より「さくらだより」 月4回以上発行できた。	【働き方改革の推進】 ・月平均29.4時間に抑えることができた。 ・働き方への取組が定着してきている。ゆとり をもった働き方や働き甲斐ができていて 感じている職員が多い。 【安全教育・安全管理の充実】 ・児童アンケートでは、8.8%の児童が、否 定的回答をしている。災害、防災について の学習や経験など、さらなる取組の工夫が必 要。 ・防災、交通安全、生活安全教育について、 学校に重点的に取り組んでほしいことに多 くの希望があった。保護者と連携した取組 を強化していきたい。 【家庭・地域との連携】 ・家庭との連携が図れるよう、情報提供の 内容や時期について検討していく。 ・行事後には、保護者へのアンケートを実施 するなど努めている。 ・お便りは予定どおり発行できた。保護者や 地域との連携を意識して今後も取り組んで いく。 【いじめや不登校への取組】 ・SCやSSW等との連携をはかり定期的に校 内支援会を実施することができた。 ・児童についての情報を早期に発見、共有し 対応するために「おむすびの会」をつくり、 組織的に対応ができるようにした。担任の ニーズにあった支援会のあり方を再検討し ていく。	B	○昨年度より超過在校等 時間人数が減少してい るので継続して取り組む とよい。 ○佐古祭りでの子どもの活 躍が素晴らしい。また、教 員も協力的で祭りを盛り 上げてくれている。今後も 一緒に祭りを大事にして 取り組んでいって欲しい。 ○防災教育への取組の充 実を図って欲しい。佐古で の防災教育を考えていく。	B	○メンターチーム会を定 期的・計画的に実施し、 一人で悩みを抱え込ま ない体制が作れている。 ○教職員の時間外在校 等時間を月平均29.4 時間におさえることが できた。一人一人が仕事 に優先順位をつけたり、 分掌を分担したりして 仕事を進めることが できている。 ○地域コーディネーター との連携がさらに進み、 あいさつ運動や学習支 援体制ができてきている。 ○防災教育について、今 後は佐古での防災教育 を考え、子どもの命を取 り組みを進めていき たい。
	不祥事を生じさせない職場風土づくり 【働きやすい職場、働きが いのある職場づくり】 100%不祥事を起こさな い。 お互いを尊重し合い、お 互いを大事にした言動を 行う。	4月： 不祥事防止委員会 教育公務員としての 服務について研修 5月： メンタルヘルス月間 個人面談 6月： ハラスメント防止月間 メンタルヘルス月間 7月・8月： 研修、個人面談 9月： 交通違反防止月間 10月： 研修 11月： ハラスメント防止月間 メンタルヘルス月間 12月： 交通違反防止月間 1月： 研修 2月： ハラスメント防止月間 メンタルヘルス月間 個人面談	①年間を通して、計画的に不祥事防止 についての研修や取組を実施できた。 ②不祥事防止委員会を定期的に開催 することができた。 ③学期に1回、面談を実施できた。 ④学校運営協議会に報告し意 見をお聴きすることができた。	①計画的に取り組むことができた。また、強化 月間では、掲示物など見える化して意識が 高まるような工夫を行った。 ②企画の場で確認をするなど実施するこ とができた。 ③個別に声掛けなど行うことで一人一人の 困り感や心の安定感などを把握するこ とができた。 ④学校運営協議会で報告を行い、ご意見も いただくことができた。	A	○服務についての研修な どを実施し、意識を高めて いった欲しい。 ○不祥事防止については、 先生方がお互いを大事に しあう雰囲気や日常的に 声をかけ合うことができ ているようで、安心している。	A

【自己評価のめやす】(取組評価指標平均と目標指標達成割合を目安とする)

《A》達成できた 《B》どちらかといえば達成できた 《C》どちらかといえば達成できなかった 《D》達成できなかった

・取組評価 85%以上、到達状況9割 ・取組評価 75%以上、到達状況 8 割以上 ・取組評価 65%以上、到達状況 6 割以上 ・取組評価 65%未満、到達状況 6 割未満